

# 「核兵器は絶対悪」

## 被爆者、廃絶と平和訴え



【ウィーン共同】21く23日に核兵器禁止条約第1回締約国会議が開かれるオーストリアの首都ウィーンで、条約制定に貢献した非政府組織(NGO)「核兵器廃絶国際キャンペーン」(ICAN)が18日、核廃絶を議論する市民フォーラムを開いた。16日まで、日本の被爆者も登壇し「核兵器は絶対悪、廃絶し、平和な世界を」と訴えた。

### ウィーン 禁止条約会議前に

日本原水爆被害者団体協議会(被団協)の木戸幸市事務局長(82)と岐阜市は5歳の時に長崎市で爆心地から3kmの自宅前で被災した体験を証言。「17カドーン」と光を浴び、吹き飛ばされた。顔の左半分にはやけどを負った」と振り返った。

多くの遺体や、水を求める人の姿を見た。核兵器は「非人道的な絶対悪の兵器」と指摘し「核禁止条約は被害者の願いそのもの。心から喜び歓迎する」と話した。長崎市の被爆二世、嶋山昇さん(63)は「二世は将来の健康不安におびえ、深刻な社会的偏見や差別に苦しんでいる」と強調。被爆者の手帳も核禁止条約が定める「核被害者の援助」の対象に含めるべきだと訴えた。

広島市の被爆者でカナダ在住のサロー・即士さん(90)もオンラインでメッセージを寄せた。

木戸さんは17日、アイルランド大使館で開かれた世界の若者が交流する「ユースオリエンテーション」にも参加。「地獄だった。二度と繰り返してほらない」と語りかけると、核保有国の米仏や両国が核実験をした太平洋地域の国々など、約10カ国から集まった約50人は真剣に聞き入った。広島市の被爆者で被団協の家島昌志代表理事(80)と東京都は、条約発効と締約

ICANが開いた市民フォーラムで被爆体験を証言する被団協の木戸幸市事務局長(18日、ウィーン)

国会議員に「やっと希望の見える味にたどり着いた。核廃絶を願う私たちにとって大きな喜びだ」と結した。日本からは約20人の若者が参加し、学生団体「KN



「ユースオリエンテーション」でスピーチする高校生平和大使の大内由紀子さん(右)と神浦はるさん=17日、ウィーン

OWNUKES TOKYO(フー・ニュークス・トーキョー)のメンバーが木戸さんらをサポート。高校生平和大使の大内由紀子さん(18)と広島県と神

浦はるさん(17)と長崎県は千羽鶴を手に、活動のストーリーカン「散力だげと無力じゃない」を英語で紹介し、廃絶まで行動を続けようと呼びかけた。